互いに愛し合うならば

のぞみ教会創立30周年記念礼拝

鈴木寛（Hiroshi Suzuki）

2026年5月26日

1　出会い

創立30周年おめでとうございます。

わたしが最初に河成海（は・そんへ）先生ご家族にお会いしたのがいつだったかは正確には覚えていないのですが、おそらく、1993年のはじめごろだと思います。わたしは、韓国語ができず、河先生たちもまだほとんど日本語ができなかったので、英語ですこしことばを交わす程度だったと思います。

韓国人の宣教師は日本にある程度はおられましたが、河（は）先生は、韓国人教会ではなく、日本人に福音を伝えると言っておられました。おそらく、他にも、そのような祈りをもっていた方はおられたと思いますが、正直、韓国人牧師のもとで、日本の地に根を張る教会を考えると、当時はほとんどなかったと思います [*1] 。また、二人のお子様は、我が家の五人の子供たちとも年齢が近かったので、祈りつつ、交流が始まりました [*2] 。

そんなとき、実は、ちょっとした経済問題が持ち上がりました [*3] 。このころ、韓国の通貨ウォンは、ウォン-ドル換算を固定していたのですが [*4] 、急激な円高のために、1990年の1ドル160円台から1995年には79円と、ドルそして連動していたウォンの価値が半減してしまったのです。1993年は、まさにこの変動の真っ只中。十分な支援が韓国の教会を通して送られていたはずでしたが、大幅に価値を落としてしまったのです。そのことで苦しんでおられることを、 [*5] 聞き、家内の節子さんと話し合って、ある金額を、使ってくださいと、献金としてお渡ししました。金額は、忘れてしまいましたが、どうも、新聞紙に包んでお渡ししたようで、あとあとまで「新聞紙のつつみで大金をいただいた」と各所で、河（は）先生に、言われてしまいました。ただ、宣教によって仕えるためにきた、日本で、逆に支えられたことが、一番の驚きだったようで、韓国の教会にも、そのことを、いろいろな形で伝えられたようでした。

私たち家族は、ほどなく東京に移りました。河（は）先生は、すでに韓国で神学校を出ておられ

[*1] 現在は状況が少し変わっていますが

[*2] 実は、わたしは、大阪教育大学で教えていましたが、夏には、三鷹の国際基督教大学に移ることが決まっていました。

[*3] 韓国の経済危機というのは、もっとあとのことを言うようです。

[*4] 日本も1971年まで1ドル360円に固定されていました。

[*5] おそらく、所属していた、日本キリスト改革派甲子園教会の山崎順治先生から

ましたが、神戸改革派神学校で学ばれ、日本語はすばらしい勢いで上達されました。しかし、同時に、日本の神学校のレベルの低さや、日本のキリスト者や牧師との考え方の違いなど、議論をしてぶつかることも増えていったようで、わたしと何度も長い時間電話で話したことを思い出します。わたしも、日本のキリスト教会の課題を認めつつも、説明をして、理解の助けになればと、願っていました。

ところが、それからほどなく、1995年1月17日、神戸淡路大震災が起こりました。私は、すでに、東京に移っていたのですが、神戸から、河（は）先生ご家族が住んでおられた西宮まで、大きな被害があり、河（は）先生のお宅でも、断水がしばらく続いたようです。河（は）先生は、すぐ、さまざまなキリスト者と協力して、被災者支援を始められました。ここで、たくさんの同労者とともに、すばらしい働きをされたと思います。

話は飛びますが、その後、狭山に移られてから、「河（は）宣教師を支える会」が作られましたが、この神戸淡路大震災で同労された方々からの支援が重要な部分を占めていたと思います。

狭山に来てからのことは、よくご存知のかたが、たくさんおられると思いますから、わたしは語りませんが、最初、こちらとは違う場所ですが、集会所を借りて礼拝を持つようになったころから、河先生の奥様の洪性姫（ほん・そんひ）さんが、毎朝、集会所の周りを掃除されていました。そのようなことも、周囲の方々から、信頼され、愛される教会としてスタートしていったたいせつなことだったと思っています。

2　わたしにとってのアジア

ここで、すこしだけ、わたし自身のことをお話しさせてください。

1969年、わたしが、高校一年の秋 [*6] 、学園紛争が起きました。一部の生徒が他校の生徒と一緒に校長室付近をバリケード封鎖、それから、毎日、政治的な問題などの議論が続き、警察機動隊も入り、数ヶ月間、授業はありませんでした。

学園紛争で、たくさん議論をし、いろいろな問いを投げかけられ、様々な問題について考えました。また、生徒たちの中にも、分断が広がっていく中、わたしは、教会に熱心に通うようになりました。大学生が多く、その人たちの話を聞き、一緒に行動し、ちょっと背伸びをしているような感じがあり、急に世界が広がった時でした。

その教会の牧師 [*7] は、戦争のころ、宣教師として東南アジアに行っておられ、戦後すぐ「つぐないのわざ [*8]」として、東南アジア学生寮を作り、アジアの戦争孤児や、日本軍の兵隊と、現地の女性との間に生まれたこどもを、日本に留学や職業研修のために招いていました [*9] 。

> 日本の若者には、混迷の中でエネルギーを使い果たすのではなく、次の時代のために東南アジアをじかに見、アジアの人々と直接交流する機会を持ってほしい。

と折に触れて言っておられたこともあり、青年会のメンバーで、東南アジアに、行くことにしまし

[*6] 1969年10月13日（月曜日）

[*7] 日本基督教団東京池袋教会、加藤亮一牧師。牧師夫人の朝子さんは、父の親戚でもあり、両親がその教会に出席していた。

[*8] 参考：「今は、つぐないの時」

[*9] 父親探しや、多くの無国籍のこどもたちの国籍取得など、困難な問題にも取り組んでいた

た。先生とも親しい海運会社 [*10] が、貨物船の空いている船室にユースホステルと同等の料金で青年を乗せてアジアを回るツアーを企画しており、そこに、大学生六人とわたしの合計七人で参加することにしたのです。

旅行が計画されてから 1 年近く、皿洗いや、旅館の手伝い、中小企業での部品の組み立て、タイプライターのセールスなどアルバイトをして、お金をためました [*11] 。

2.1 東南アジア53日間貨物船の旅

1970年高校二年の夏、貨物船の旅に出ることになりました。

日本から中古のブルドーザーや工作機械を積んでシンガポール（Singapore）やマレーシアのペナン（Penang）という自由貿易港でおろし、インドネシアのボルネオ島 [*12] のバリクパパン（Balikpapan）とサマリンダ（Samarinda）に寄り、ラワンという材木を積んで、韓国の釜山でおろすという53日間の旅でした [*13] 。

旅行の準備の期間も、旅行中も、聖書や英語やアジアについての勉強会をしました。西洋の植民地からアジアの人々を解放するという名目で、アジアに進出し、労働力や資源を日本の植民地のように使い、戦争のために略奪し、虐殺も含め、日本軍が武力で現地の人たちを支配していった歴史を学び、日本人としての戦争責任の重さを感じ、アジアの人たちとどのように向き合えば良いのか正直不安になっていきました [*14] 。

訪問先では、教会を訪ね、また、さまざまな人たちと会いました。皆、非常に貧しい生活をしていて、さまざまな方法でお金を稼ごうとしている子供達 [*15] や、性的なサービスをしないと生きていけない若い女性たちとも出会いました [*16] [*17] 。

[*10] 小山海運：東南アジア航路を中心に、1960年代から成長、1975年8月21日破産

[*11] 海運会社に払い込んだお金は 72,000円。初任給は、35,000円程度の時代。高校生のアルバイトの時給は、100円から180円程度。教会では、週報やその他和文タイプを使う仕事をわたしのアルバイトとしてくれたり、バザーをして援助してくれた。両親は心配していたが、最後には、応援もしてくれた。父は当時は国家公務員（労働省）、軽い身体障害があり、兵隊には取られず、軍属（軍人以外で軍に所属し、文官、雇員、傭人などとして勤務する者）としてインドネシアに労働調査のために行っており、牧師ともインドネシアでも会っていたが、戦争中の経験から、自分は東南アジアには行けないと言っていた。

[*12] インドネシアでは現在はカリマンタン島と呼ぶ

[*13] 横浜の本牧埠頭を出て、次は神戸三宮港、（ここで大阪万博 Expo 70 に行き、次の、）広島宇品港（からは、平和記念公園に行き）と短期間停泊し、それから、シンガポールへ。シンガポールには、メンバーが関係していた、キリスト教団体、国際 Navigators の支部があり、ペナンには、東南アジア学生寮に来ていた留学生が帰国していたので、お世話になったが、バリクパパン（製油場があった）や、サマリンダ（現在はカリマンタン州の州都だが、そのころは、河をのぼって行ったところにある小さな港町）には、まったく知人がいなかったので、教会を探した。材木の上げ地が釜山に決まったのは、サマリンダを出発するころ。

[*14] 牧師から話も聞いていたので、一般の日本人よりは知識があったが、日本のアジアにおける戦争犯罪などは、まだ、情報が限られており、どうも、たいへんなことをしていたらしいといった曖昧な情報も多かったと思う。

[*15] サマリンダで、作業を手伝うお父さんと一緒に船に来た男の子が、わたしのサンダルを欲しいという。お前は、他にも靴を持っているだろう、自分は裸足だという。かなり迷って、そのサンダルをあげようとすると、底が少しはがれているのをみつけ、これは売れないからいらないという。会話は無論、ほとんど身振り手振り。

[*16] 桟橋に停泊するのは停泊料金が発生するため貨物の積み下ろしの時だけ、基本的に、湾内に停泊。上陸ははしけ（河川や港湾で、大型船と陸の間を往復して貨物を運ぶ、平底の小型船。barge, lighter）を利用。すると夜になると、はしけでいろいろなものを売りに来たり、コールガールや、コールガールを連れた人が来て、マッサージと称し、性的サービスの斡旋をする。かなり若い子もいた。英語がほとんど話せない、わたしと同室の人は、リーダーの部屋に行けと追い返すのがやっとだった。何をする人なのかも、あとから、説明を受けないとわからない高校生だった。

[*17] 語学力もなく、直接コミュニケーションをとることが限定的であったことも、このように考えた背景にあると思う。教会に併設されていた、東南アジア学生寮の学生たちもいたので、努力して、もっともっと直接的な交流でできたと

また、韓国は、最初は寄港地に入っていなかったのですが、途中で、会社から連絡があり、材木の上げ地が釜山になったとのことでした。韓国では、戒厳令も敷かれており、午後８時以降は、外出禁止、また、コレラも流行っていました。日本語を話せる方も多く、いろいろと話す機会がありましたが、ある程度年配の方の多くは、日本人が嫌いで、憎しみを持っていたり、日本の経済的な発展を、妬ましく思っていました [*18] 。

正直、どのように接したらよいのか、困惑しましたが、東南アジアの子どもたちも、必死に生きている姿を見て、また、韓国のひとたちに対しても、今を、そして、未来を生きる、わたしは、その人たちに日本人のしたことについて謝って回るというより、「同じ時を、ともに生きるものとして、責任をもって生きていくことが、たいせつなのではないか」と思うようになりました。あまり良い表現ではないかもしれませんが、「違った世界で生きていても、この人たちのことを覚え、この人たちに恥ずかしくない生き方をして、生きていこう」と決断させられたということでしょうか。

3　たいせつにしていること

私のたいせつにしていることばに、ヨハネによる福音書13章34,35節があります。

> あなたがたに新しい戒めを与える。互いに愛し合いなさい。私があなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。互いに愛し合うならば、それによってあなたがたが私の弟子であることを、皆が知るであろう。」

互いに愛することは、簡単ではありません。互いに愛するというときは、そこに相手がおり、自分だけ頑張っても、できることではありません。さきほど、「同じ時をともに生きる」ということばを使いましたが、これも、よく使われたことばですが、これも、自分だけではできないことです。

おそらく、わたしと、河先生、わたしの家族と、河先生、洪さん、お子様方、そして、みなさん、日本人と韓国人もそうでしょうか。互いに愛するとは、簡単なことではありません。しかし、イエス様は、ここで、わたしがあなた方を愛したように、と言っておられ、弟子たち、イエスについていき、一緒に生活していた弟子たちには、どのようなことかは、理解できたと思います。このことばの、すこし前では、イエス様は、弟子たちの足を洗ってもおられます。

ここでは、さらに、「互いに愛し合うならば、それによってあなたがたが私の弟子であることを、皆が知るであろう。」ともイエス様は、言っておられます。そう簡単に実現することではありませんが，これを、みなさんとも、目指していくことができればと願っています。

これからも、そのようなことをめざす、のぞみ教会であることを祈っています。

思うが、そのころは、できずにた。幼かったとも言えると思う。「今は、つぐないの時」を読み返すと、かなりの割合の留学生は知っているが、深い交流はなかった。

[*18] 東南アジアでもある程度そうだったたが、特に当時、韓国では、ほとんどすべてのひとが日本を嫌っているように見えた。